



優れた、より良い福祉コミュニティーをめざして

ふれあいネットワーク

# まほろば

## 社協広報

第70号



写真 シンポジウムの様子

## 平成27年度山形村福祉のつどい開催

12月12日(土)いちいの里デイルームに於いて、未来の子どもたちにつなぐふるさとをテーマに「平成27年度山形村福祉のつどい」を開催しました。

第2部のシンポジウムでは、住民の皆さんが現在取り組んでいる活動の紹介があり、お陰様で大盛況に終わりました。

詳しくは1～2ページを参照ください。

山形村福祉のつどい	1・2
特集「地域と若者」寄稿 松本大学 白戸洋氏	3・4
まほろばトピックス～よもやま話～	5
村内の福祉施設紹介	6
赤い羽根・歳末たすけあい 共同募金運動の実施結果	7

# 平成27年度

# 山形村福祉のつどい

12月12日(土)にデイサービスセンターいちいの里にて平成27年度山形村福祉のつどいを開催いたしました。

## 社会福祉協議会会長表彰

福祉活動功労者・福祉事業協力者の方々へ、表彰状と感謝状がそれぞれ授与されました。

福祉活動功労者 村上昭秀 様 原宏見 様

福祉事業協力者 古川寺観音奉賛会 様 古田英三 様



地域福祉の発展に寄与された功績に感謝申し上げます。

## 岩手県物産展・復興支援バザー

毎年好評となっている、岩手県物産展が行なわれました。

今年度も岩手県山田町の山田の醤油を中心に、日本酒やワイン、ジュースなども販売し、売上総利益は山田町社会福祉協議会へ寄付させていただきました。

また、日赤奉仕団の皆さんにご協力いただき、復興支援バザーも同時に行なわれました。来場された皆さんはバザー品を手に取り、買い物を楽しまれていました。



復興支援バザーの売上総利益のすべては、日本赤十字社長野県支部を通じて、平成27年台風第18号等大雨災害義援金、並びに平成27年台風第21号与那国町災害義援金とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

### 平成27年度 福祉のつどい寄付結果

福祉のつどい物産展売上(送金先：岩手県山田町社会福祉協議会へ送金)	25,862円
復興支援バザー売上 (送金先：日本赤十字社長野県支部を通じて 平成27年台風第18号等大雨災害義援金 18,200円 平成27年台風第21号与那国町災害義援金 18,200円)	36,400円
NHK海外たすけあい街頭募金(送金先：日本赤十字社長野県支部)	7,491円
合 計	69,753円

その他にも障害者就労支援センターすばらの物品販売や、子ども用品リサイクル会も行なわれ、会場は賑わっていました。



# 開催！！

## テーマ

未来の子どもたちにつなぐふるさと  
～いまの山形村を知ることで  
明日からの活動につなげる～

### みんなの絵画展

絵画展では、「子どもひろば」で青木村にある昆虫資料館に行った時に子ども達

が描いた絵と、「生きがいデイサービス」の作品が展示されました。会場に訪れた皆さんは一つ一つの個性あふれる作品をご覧になり、とても感心されていました。



### シンポジウム

山形村社会福祉協議会 地域福祉推委員会 中村哲久氏の司会進行で以下の基調講演と活動事例発表が行なわれました。

#### ●基調講演 松本大学総合経営学部教授 白戸洋氏

戦後、家族の力が弱くなっている。地域のつながり、どうつながっているかが大切である。戦後は食べるために、自給自足を基本に地域とつながっていた。

高度成長期には、労働者を都市へと向かわせた。農業の機械化により、都会に人が流れた。養蚕は人工繊維になり、林業も衰退し、もともと農業・養蚕・林業で生活が成り立っていたが、これらの産業だけでは生活できないようになった。しかし今、農業を地域の核になるような活動が求められるようになった。

次世代に農業・地域産業・生活環境をどうつなぐのかが課題である。日本の自給率は低い。危機感を持たないといけない。

#### 活動事例発表

##### ●(有)竹田の里 神通川清一氏

建設業から農業への拡がり→農家の高齢化が目立ってきた。減反政策により荒廃地が増えた。山形村の自然を大切にしたい思いから、優良農地の維持が大切ではある。しかし業務に経費がかかり、コストダウンが必要である。異常気象も目立ち、気になっている。

##### ●定年就農者の会 本庄利昭氏 降旗典明氏

会のメンバーが団塊の世代でそれぞれ定年を迎え、残された人生をどう生きるべきか、いろいろな熱い意見を交わして、試行錯誤を繰り返してきた。活動のこだわりは定年後の為、懇親会の会費は1,000円程度で工夫している。いろいろな部会ごとに農作業をしている。

三方よしの精神で地域社会に貢献し、有意義な人生をモットーに活動している。

##### ●参加された方から意見：

- ・後継者を作る必要を感じている。
- ・農業を通して人とのつながりを大切に思う。
- ・定年後、母からノウハウを聞きながら農業をしている。
- ・荒廃農地が増え残念に思っている。
- ・農地が活用できればよいと思っている。
- ・自宅周辺で程よい感じの畑の広さで農作物を作っている。自然のめぐみを大切にしている。

#### まとめ

##### ●松本大学総合経営学部教授 白戸洋氏

定年後、夫婦のみの生活になり会話が少ない環境になり、地域との交流が大切になる。

竹田の里からそば粉を購入して、定期的に蕎麦屋を営業しているとの活動紹介や、経営者として視点を持つとおもしろくなるなどの提案もあり、会場の皆さんとの将来への思いを共有することができた。



福祉のつどい 記念寄稿

## 特集 「地域と若者」

平成27年度山形村福祉のつどいにおいて未来の子どもたちにつなぐふるさとをテーマに開催しました。そこで今号はシンポジウムでお世話になった松本大学教授 白戸洋氏に寄稿いただきました。

かつて田舎の若者は田舎を嫌い都会に出ていくことが当たり前だった。しかし人は一人では生きられない社会的な動物なので、都会に「会社」という「むら」をつくって、そこに属することによって自分の居場所を確保した。ほとんどの時間をそこで過ごし、生きるための糧をそこで得る。かつての農村社会と同じように、そこで暮らし、働く場となった「会社」は、新しいコミュニティとして戦後日本の社会の重要な場となり、部内旅行や社内運動会など、かつての「むら」で行われた行事もそこで大事に行われた。しかし最近この都会にできた「むら」が壊れてきた。リストラとっては、「むら」から放り出され、就職難とっては、「むら」に入れてもらえない。それどころか「むら」がある日突然無くなってしまうことさえある。その結果、みんなどこに「むら」をつくり、どこに居場所を見つければいいか、おろおろしているのが今の現実ではないか。

15年前に長野県は、高校の卒業生が県内の大学に進学する「残留率」が7%で、全国最低であった。いくつかの大学が開設し、最近は15%前後に改善されたものの、依然として全国平均の半分以下である。100人中で85人が県外に流出し、そのまま戻ってこないという現実、将来の人口減少や消滅可能性として将来の長野県にとって深刻な課題になっている。なんとしても若者を地域に定着をさせない限り、長野県には未来はない。最近になって、遅まきながらやっと現状に危機感を感じてきたものの、ではどうやったら若者が地域に定着するかは、これといった名案があるわけではないのが現実でもある。

松本大学は、「地域の若者を地域で育て地域に還す」ことを理念に掲げ、県内出身者の地元への就職率は100%に近い。彼らは地元に残り地元を支えることを選択しているが、それは単に地元志向が強いだけではない。大学在学中に、地域に出て地域で学ぶという教育手法を大学がとっていることから、地域の人たちと出会い、信頼関係を構築し、地域の中で様々な経験をすることができる。その結果、ここならば、あるいはこの人たちとなら一緒にやっていきたい、暮らしてみたいと自然に考えるようになる。自分が地域から必要とされ、必要としてくれる人が地域にいると実感したとき、彼らは切にここで生きていこうと思うのである。

7年前から、山形村を含めて地域の農家から、採りたての野菜を仕入れ、松本の市街地でリヤカーに載せる野菜の引き売りに学生たちが取り組んでいる。当初は捨ててしまうハ

## 松本大学 総合経営学部 教授 白戸 洋氏



ネ出しの野菜を有効活用することを目的として始まった活動であったが、松本駅アルプス口周辺の高齢者が買い物に困っていることが分かったことで、買い物支援としての事業として展開されてきた。

毎週火曜日に行われる引き売りでは、野菜を買うというニーズにとどまらず、学生さんとお話したいという高齢者も多く、地域のコミュニケーションの場ともなっている。さらに野菜の豊富な夏場は野菜の訪問販売が中心となるが、野菜がなくなる冬場に向けて、今学生は、高齢者の生活を支える活動を準備している。雪が降れば出歩けなくなるという声に対応して、雪かきのサービスや御用聞き、宅配サービスなど様々なアイデアを出して高齢者のニーズを探っている。

もちろん学生の活動は、ビジネスとして成り立つには程遠く、なにかのきっかけになればというレベルである。しかし、大切なことは、この活動を通して、学生たちが自分たちにも地域の中で役割があり、自分を必要としてくれる人がいるという実感を、理屈ではなく、地域の人と面と向かって向き合う中で得ることができるということである。実際に引き売りに取り組み、卒業後は、関連する流通や農業、食品、福祉などの分野の仕事に従事し、今度はビジネスや行政の施策として関わるケースも出てきている。彼らはある意味、意気を感じて職業選択をしたのであり、彼等は地域の宝と言っても過言ではない。

松本で始まった引き売りは、今では飯田長姫OIDE高校の生徒が飯田市街地でも取り組み、高齢化する地域の高齢者の課題と向き合っている。引き売りをきっかけに、飯田市では飯田市と松本大学、そして飯田長姫OIDE高校が、連携協定を締結し、地域を愛し、地域を担っていこうという若者を育成する「地域人教育」として6年前から若者を地域に定着する試みを開始している。特にそこで大事にされていることは、自分の暮らしている地域の魅力を発見し知ることである。この動きは、県内の商業高校にひろがり、地域の資源を活かした商品地域に向かって発信していく実践的な取り組みとして、マーケティング塾として具体化している。月に1回松本大学に集まって学び、地域の資源を活用した商品化に取り組み、その成果発表の場として、夏はながの東急百貨店で、冬はスイーツに限定してアイシティ21\*で合同販売会を行っている。来年度からは農業高校もこれに参加し、若者が地域に向き合う機会をさらに拡げていこうとしている。

これまで若者に地域の魅力をきちんと伝えてきたかと言えば、大人自身が地域の魅力に関心を持ったり、大切にできていないという現実気づく。そのような地域では若者が地域に定着することは不可能に近い。大人がもっと地域に関心を持ち、地域を理解することが必要である。そして将来の仲間として若者に向き合うことこそ、彼らを地域に定着させる一番の近道となる。

\*本年度も2016年2月6日・7日にバレンタインスイーツとして開催を予定



## ☆☆平成27年度ふれあいの旅～静岡～☆☆

今年度のふれあいの旅では、静岡方面への旅行に行ってきましたのでご紹介します。恒例の当事者企画ということで、あらかじめ参加者の方々と事前会議を開き、行き先を富士サファリパークに決定し、準備をすすめてきました。



いよいよ9月26日(土)をむかえ、当日は参加者と職員等を含め27名で山形村を出発。約4時間の道のりを車内レクのクイズやビンゴを楽しみながら一路バスで中央自動車道上り線を東海方面へと向かいました。

目的地富士サファリパークでは、旅行バスに乗車したまま動物が間近で

見ることのできるサファリゾーンを体験。想像以上に動物の姿が見えて、その距離は窓越し約30センチ!! 迫力のある姿に、参加者を含め職員までもが感動し、車内は大賑わいでした。



その後は皆で食事をし、帰路の途中にある道の駅朝霧高原で各々旅の記念品やお土産を購入し、朝霧高原ならではのソフトクリームを堪能することができました。



### 障害児通所支援事業所すばる／放課後等デイサービスの利用のご案内

山形村社会福祉協議会では、本年11月1日から下記の事業を開始（試行実施）することとなりました。（\*平成28年4月1日から本格実施）

#### 新規事業 障害児通所支援事業所すばる／放課後等デイサービス

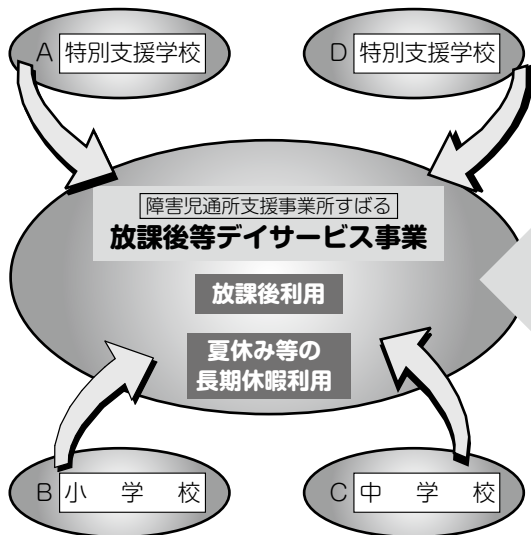
##### 事業の概要

学校通学中の障害児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障害児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを推進し、社会との交流促進等の場と機会を提供することを目的に開設します。

この事業は、障害児の学齢期における支援の充実のために、児童福祉法の一部が改正（平成24年4月1日施行）され創設された新制度に基づく事業です。

**対象児童** 学校教育法に規定する学校（幼稚園、大学を除く）に就学している障害児

**定員** 10人以内 \*当分の間



##### 提供するサービス

学校授業終了後又は休業日において、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与します。

■多様なメニューを設け、本人の希望を踏まえたサービスを提供します。

- ①障害児支援利用計画にもとづく個別援助計画の策定
- ②自立した日常生活を営むために必要な訓練
- ③創作的活動、作業活動
- ④地域交流の場と機会の提供
- ⑤余暇の提供

■学校との連携・協働による支援について  
学校と放課後等デイサービスの一貫性を配慮した支援サービス提供を行ないます。

## 村内の福祉施設紹介

「広報まほろば」では、高齢者の日常生活を支援する事業所取材し、順次紹介させていただきます。

皆さまから、認知症や足腰等が弱った時に、利用できる事業所を知りたい、という意見をいただいたことがきっかけになりました。

今号は「協立居宅介護支援センターやまがた」と「ラポール山形第3宅老所」の二つの事業所を紹介させていただきます。

### 〈事業所名〉

社会医療法人 中信勤労者医療協会  
協立居宅介護支援センターやまがた

〈所在地〉 東筑摩郡山形村2524-1

### 〈対象者〉

要支援、要介護1～5の認定をお持ちの方

### 〈提供サービスの内容〉

在宅で療養されている方、在宅で介護されている方に寄り添い、病気と上手に付き合いながら生活していくためのお手伝いをさせていただく仕事です。

「入院はしたくない」「家で療養したい」「でも家族にはなるべく迷惑をかけないで生活したい」・・・など、ご利用者様のご希望に沿ったサービスを提供できるよう、相談に乗りながら情報を提供していきます

### 〈事業所からのPR・コメント〉

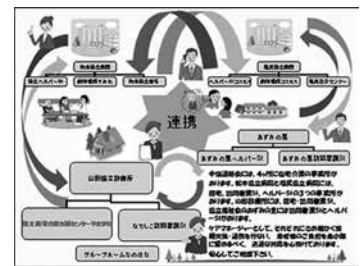
協立グループとのスムーズな連携を生かした支援ができます。

山形協立診療所だけでなく、松本や塩尻、安曇野市にある病院や事業所など、広域での連携がとれることで、患者様のご負担を最小限にとどめることができると考えております。

在宅で介護を継続することはとても不安で心配も多いと思いますが、そんな皆様に寄り添い、共に歩み、成長できるケアマネージャーでありたいと日々努力しています。

どうか安心して、気軽にご相談ください。

〈お問い合わせ先〉 電話：98-3949 FAX：98-3948



### 〈事業所名〉

NPO法人ラポール 山形第3宅老所

〈所在地〉 東筑摩郡山形村220-43

### 〈対象者〉

要支援、要介護1～5の認定をお持ちの方

〈定員〉 通所介護 10名/夜間介護 5名

### 〈提供サービスの内容〉

- ・ 365日、24時間の介護体制
- ・ 予防通所介護サービス
- ・ 通所介護（デイサービス）  
（入浴、食事、レクリエーション、機能訓練などを行なう）
- ・ 夜間介護（ナイトケア）

（お泊りは一泊からお受けいたします。尚、介護保険適用外のサービスとなります）

### 〈事業所からのPR・コメント〉

安全・安心を第一に考え、ご利用者様、ご家族様に寄り添った介護を心がけています。365日24時間、常に対応させていただきます。

また看護師、機能訓練指導員も常駐しています。

笑顔の絶えない空間造りを目指して日々、努力しております。

〈お問い合わせ先〉 電話：98-5037 FAX：98-4752



# あたたかな善意、ありがとうございます



## 赤い羽根・歳末たすけあい 共同募金運動の実施結果



平成27年度／赤い羽根・歳末たすけあい共同募金運動を、10月1日から10月31日にかけて実施したところ、下表のような実績となり、全額を長野県共同募金会へ送金します。この募金は、その一部が平成28年度において、配分金として山形村社会福祉協議会へ交付され、各種福祉事業に充てられることとなっています。

総合計 1,943,157円

平成27年12月18日現在 (単位：円)

上大池	中大池	小坂	下大池	上竹田	下竹田	募金総額
226,500	184,000	383,000	180,200	477,500	456,800	
職域	山形小学校		鉢盛中学校		村内公共施設等	1,943,157
16,075	9,937		8,319		826	

### 福祉なんでも相談・支援セミナーの開催

## 新しい相談事業がはじまります

誰もが気にしていながら、なかなか人に話しづらい自分自身のこと。

自分自身の万一のこと。財産のことや、家族のこと。「相談するほどでもないし」と思いつつも、心のかたかたで気になっていることはありませんか？

山形村社会福祉協議会では、地域の皆さんの身近な生活課題をテーマに基礎から学び、生活相談・支援へとつなげて行くことを目的に、福祉なんでも相談室／生活相談・支援事業（福祉なんでも相談・支援事業）を新しく立ち上げました。

まずは、標記の講座（セミナー）を開催致します。お気軽にご参加下さい。

### 第1回 「終活とは何か？」

元気なうちに準備しておきたいこと (受付13:30～)


平成28年1月26日(火) 14:00～16:00

### 第2回 「エンディングノートの役割とは？」

なぜ必要なのか？大事なことは？ (受付13:30～)

平成28年2月23日(火) 14:00～16:00

会場 山形村保健福祉センター 研修室 住所 東筑摩郡山形村4520-1

講師  相続手続支援センター® 清水あゆ子 専門指導員

お問い合わせ・参加申し込み 山形村社会福祉協議会／福祉なんでも相談室

☎0263-87-8754 定員30名

※定員になり次第  
締め切りとなります。

※参加費無料

(主催) 社会福祉法人 山形村社会福祉協議会

(協力後援) 成迫会計グループ

**まほろば** (社協広報／第70号) 平成27年12月25日発行

●発行所 社会福祉法人 山形村社会福祉協議会(山形村保健福祉センターいちいの里内)  
〒390-1301 長野県東筑摩郡山形村4520番地の1 ☎0263 (97) 2102 FAX0263 (97) 2108

ホームページアドレス <http://poponet-yamagata.or.jp/>

●「まほろば」に掲載されなかった記事についてはホームページに掲載されていますので是非ご覧ください。

この印刷物は植物油インキおよび再生紙を使用しています。